

令和7年度 徳島県立徳島北高等学校 学校評価計画

1 徳島北高等学校のスクール・ミッション

英語教育をリードする学校として、ICTを活用し、コミュニケーション力を伸ばす授業や外国の人々と交流する「English Day」、「語学研修」などの体験活動を通して、国際社会に貢献する「グローバル人財」に必要な力を育成します。

2 スクール・ポリシー

- (1) 自ら課題を見だし、主体的に学びに向かう力を育成します。
- (2) 知識・技能を活用し、他者と協働して課題を解決する力を育成します。
- (3) 人権を尊重する豊かな心と異文化理解の精神を育成します。
- (4) 確かな英語力とコミュニケーション能力を育成します。(普通科)
豊かな英語力とコミュニケーション能力を育成します。(国際英語科)
- (5) 国際的視野を持ち、持続可能な社会の形成に貢献する力を育成します。

3 「学校目標」(今年度の重点目標)

- 「自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現し、行動できる生徒の育成」
- (1) 自ら課題を見だし、主体的に学びに向かう生徒を育成する。
 - (2) 知識・技能を活用し、課題解決等を通じて、新たな価値を創造しようとする生徒を育成する。
 - (3) 個性を認め合い、多様な人とコミュニケーションを図りながら、国際的視野を持った社会の担い手となる生徒を育成する。
 - (4) 指導と評価の一体化による授業改善をすすめ、個別最適・協働的な学びを推進する。

4 本年度の取組

＊ 総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評 価		次年度への課題と方策
1 人権教育	①すべての教育活動を通じて実施 ②生徒・教職員が共に意識高揚	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	
		① 「人権意識が高まった」と答えた生徒の割合を85%以上にする。 ②-1 「人権委員会だより」を各学期1回以上発行し、読んでいる生徒の割合を70%以上にする。 ②-2 教職員の校外における人権講演会や研修会の参加を一人1回以上にする。		(評定)	
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	
		① 人権ホームルーム活動や学校行事等で、自分の意見を発言し、他人の意見もしっかり聞くことができるなど、主体的に参加・体験させる。 ② 「人権委員会だより」を生徒主体で発行し、ホームルーム活動などを利用して、人権委員に記事を紹介させるなど生徒主体の活動を活発にする。また、Classiで全生徒に配信し生徒の読む機会を増やす。			
2 学習指導	①学習習慣の確立 ②主体的・対話的で深い学びに向け、指導と評価の一体化による授業改善 ③生徒一人1台端末の活用を促進して、個別最適・協働的な学びの推進	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	
		①-1 平日の家庭学習（塾等での学習を含む）が1時間以上の生徒を90%以上にする。また、休日の家庭学習（塾等での学習を含む）が「(学年)＋1」時間以上の生徒を80%以上にする。 ①-2 「午後9時までに家庭学習を始める」習慣が身についている生徒の割合を80%以上にする。 ①-3 自主学習状況を把握するために、Classiの学習記録を毎日入力する生徒の割合を85%以上とする。 ②-1 「学校の授業内容は、自分の学力を高めることに役立っている」と回答した生徒の割合を80%以上にする。 ②-2 「予習や復習など自主学習を毎日行ってい		(評定)	
				(所見)	

		る」と回答した生徒の割合を70%以上にする。 ③ I C Tを活用した教科指導を充実させるため、 I C T関連の教職員研修を年間2回以上実施する。			
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1・2 学習記録や生活実態調査を通して、現状の把握に努める。自主学習が不足している生徒には担任が面談を実施し、原因の解明と改善を図り、具体的なアドバイスを行う。また進路説明会等で、自主学習の現状とその重要性を保護者に認識してもらい、積極的なサポートを依頼する。 ①-3 自主学習が不足している生徒には、その原因を分析し自主学習時間が増加するようにサポートする。 ②-1 予習、授業、復習の学習スタイルを確立させ、課題や確認テストを実施し、授業内容の理解とその定着を図る。 ②-2 自己の学習活動の振り返りができる時間を設け自己内省することで、主体的な学びにつながるようにする。 ②-3 教科指導研修会の情報を周知し、事後は教科会や資料の閲覧を通して情報の共有を図る。 ③ 各教科ごとにClassiの運用方法について検討・検証するとともに、Classiの運用方法について研修を行い、生徒自身が効果的に学びの振り返りを行うことができる環境づくりに努めるとともに、生徒の学習状況に対する適切な支援に活かす。			
3 生徒指導	①挨拶の励行など基本的生活習慣の確立 ②生徒一人一人の実情に応じた支援とヘルメット着用等の安全教育を推進 ③社会の一員としての公共心の育成 ④いじめ等問題の未然防止、早期発見、早期解決 ⑤生徒の健康維持と疾病の予防	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	
		①-1 服装規程に反して、再点検指導となる生徒の割合を1%以内にする。 ①-2 遅刻者の数を昨年度より10%減少させる。 ①-3 教員による登校指導を月1回、生徒による「あいさつ運動」を学期に1回実施する。 ②-1 自転車交通事故件数を昨年度より減少させる。(昨年度28件) ②-2 自転車通学生のヘルメットの着用について督促する。 ③-1 学校安全の日の立哨指導や交通マナーアップキャンペーンを通して自転車の交通マナーの向上に努める。特に並進通行、ながら運転の防止に努める。 ③-2 携帯電話の安全な使い方についての講演会を年1回以上実施する。 ④-1 「いじめは人間として許されない」と全ての生徒に認識させる。 ④-2 生徒対象「いじめアンケート」を年間3回以上実施し、不安を抱えている生徒には関係教員と連携し、個別面談を実施する。 ⑤-1 定期健康診断の受診率を100%にする。 ⑤-2 保健だよりを年間12回発行する。 ⑤-3 スクールカウンセラーによるカウンセリングの案内やカウンセラーだよりを年間12回発行する等し、不登校傾向の生徒には早めの対応を行う。 ⑤-4 特別な支援を必要とする生徒には、適切に対応する。		(評定)	
				(所見)	
		活動計画	活動計画の実施状況		

		<p>①-1 常日頃から清潔感のある制服の着こなしができるように、学年団と連携・協力をしながら常時指導を徹底する。</p> <p>①-2 登校指導週間を実施するとともに、多遅刻生徒の指導を徹底する。</p> <p>①-3 生徒会や生活委員と協力しながら自発的な挨拶を喚起する。</p> <p>②-1 登校指導を月1回以上、警察署やPTAとの合同指導を年3回実施する。</p> <p>②-2 交通事故の状況について、職員・生徒・保護者の共通理解が図れるよう、情報を提供する。</p> <p>②-3 交通安全教室を実施する。</p> <p>③ 各関係機関と連携し、交通安全教室、スマホ安全教室を行い、自転車の交通マナー、情報社会におけるモラルを身につけさせる。</p> <p>④ 生徒の日常の言動と行動に注意を払い、不適切な場合はその都度指導する。また、生徒一人一人を尊重し、面談等を実施していじめ防止に取り組む。</p> <p>⑤-1 健康診断の実施と事後措置の徹底を図り、生徒の健康状態の把握と疾病の早期発見・受診推奨に努める。</p> <p>⑤-2 保健だよりや生徒保健・厚生委員会活動、健康に関するホームルーム活動や講演会、学校保健委員会等を通じて、生徒の健康課題に合った情報の提供や啓発を行う。</p> <p>⑤-3 悩みを持つ生徒や保護者の支援に努めるため、教育相談室やスクールカウンセラーを積極的に活用する。</p> <p>⑤-4 校内外の関係者と連携を図り、特別な支援を必要とする生徒への対応や支援を行う。</p>			
4 進路指導	<p>①キャリア教育を推進し、主体的な進路選択に向けた支援の充実</p> <p>②生徒の能力（可能性）、適性、希望等を踏まえた進路指導</p>	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	
		<p>①-1 1・2年次にオープンキャンパスや体験活動に参加した生徒、またWebや誌面での進路研究に各学期に1回以上取り組んだ生徒の割合を100%とする。</p> <p>①-2 ポートフォリオを利用し、校内外で取り組んだ活動の振り返りを行う生徒の割合を100%とする。</p> <p>②-1 2年次の9月の進路調査で、「進路目標が明確になっている」と回答した生徒の割合を100%とする。</p> <p>②-2 公務員セミナーや就職説明会などを通して自ら考える力を育て、就職を希望する生徒全員が進路を実現する。</p>		（評価）	
		活動計画	活動計画の実施状況	（所見）	
		<p>①-1 あらゆる機会を通して「自分の生き方」を考えさせるとともに、体験活動や進路研究に関する情報の提供に努め、1・2年生の間に必ず1回以上取り組ませる。</p> <p>①-2 ポートフォリオの意義とその利用方法を周知し、振り返りと記録を徹底させる。</p> <p>②-1 生徒や保護者に進路情報を提供し、各自の進路目標を設定させ、その実現に向けて主体的に学習する態度を育成する。また「若楠」や「進路ニュース」、「創立記念日の卒業生の講演会」などを活用し、進路意識の高揚を図る。</p> <p>②-2 望ましい職業観、勤労観の育成に向け、公務</p>			

		員セミナーや就職説明会を通して職業理解を進め、働く意義を学ばせる。			
5 特別活動	①部活動や生徒会活動の活発化を通じて、所属感・連帯感を強化 ②ホームルーム活動や学校行事を通じて、温かい人間関係を確立	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	
		①-1 学校評価アンケートにおいて「学校行事に自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒の割合が、80%以上である。 ①-2 学校評価アンケートにおいて「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」と回答した生徒の割合が、80%以上である。 ②-1 学校評価アンケートにおいて「学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合が、80%以上である。 ②-2 学校評価アンケートにおいて「生徒は学校行事に自主的に取り組み、望ましい人間関係を構築できている」と回答した教員の割合が、80%以上である。		(評定)	
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	
		①-1 生徒会役員が中心となり各行事計画を立て、全校生徒が自己の役割や責任を自覚し、生徒の意見ができるだけ計画に反映できるようにする。 ①-2 各行事の事前・事後にアンケートを実施し、生徒自身に自らの取組についての状況を把握させ、今後の活動に生かせるようにする。 ②-1 各ホームルームでの人間関係を深め、生徒会や部活動での学年の枠を超えた人間関係も構築し、豊かな心を育成する。 ②-2 ホームルーム担任や部活動顧問という立場で、生徒の人間関係をよく観察し適切な方向に導けるようにする。			
6 国際理解教育	①豊かな国際感覚と英語コミュニケーション能力の育成 ②異文化理解、国際協調の精神の醸成	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	
		① 語学研修の機会を国際英語科、普通科の両方に提供する。 ②-1 講演会や海外との交流の機会を年間3回以上提供する。 ②-2 留学生を積極的に受け入れる。		(評定)	
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	
		①②-1 国際英語科対象を対象としたオーストラリアでの海外語学研修を実施する。 ①②-2 普通科を対象としたブリティッシュヒルズでの国内語学研修を実施する。 ②-1 全学年を対象に、外務省「高校講座」を実施する。 ②-2 海外からの留学生の受け入れや交流活動を通して、異文化に対する理解を深める。			
7 防災教育	①災害への対応能力・判断力・行動力の育成 ②自助・共助・公助の視点で、災害時に役立つ人材の育成	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	
		① 地震・津波及び地震・火災対応避難訓練をそれぞれ年1回早期に実施するとともに、想定外津波避難訓練も1回実施する。 ② 校内外で行われる防災関係の行事を案内し、環境・防災委員以外の生徒の参加も募る。防災士講習		(評定)	
				(所見)	

		会参加者については、2名以上の新規防災士登録者を 目指す。			
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 避難場所や避難経路・方法などを充分周知する。 ①-2 環境・防災委員会により、文化祭時に展示による啓発活動を行い、全校生徒の防災意識の向上を図る。 ② 校内での防災関係講習会を行う予定であり、また校外講習会は案内が届きしだい案内及び募集する。防災士講習も同様に環境・防災委員を中心に募集し、文化祭時に活動報告を行うことで、その成果を全校生徒と共有する。			

学校関係者の意見
